

1. 研究課題名：

脳の発達臨界期にあたる幼児期の殺虫剤ばく露量モニタリング

2. 研究代表者氏名及び所属：

上島通浩（名古屋市立大学大学院医学研究科）



3. 研究実施期間：平成 27～29 年度

4. 研究の趣旨・概要

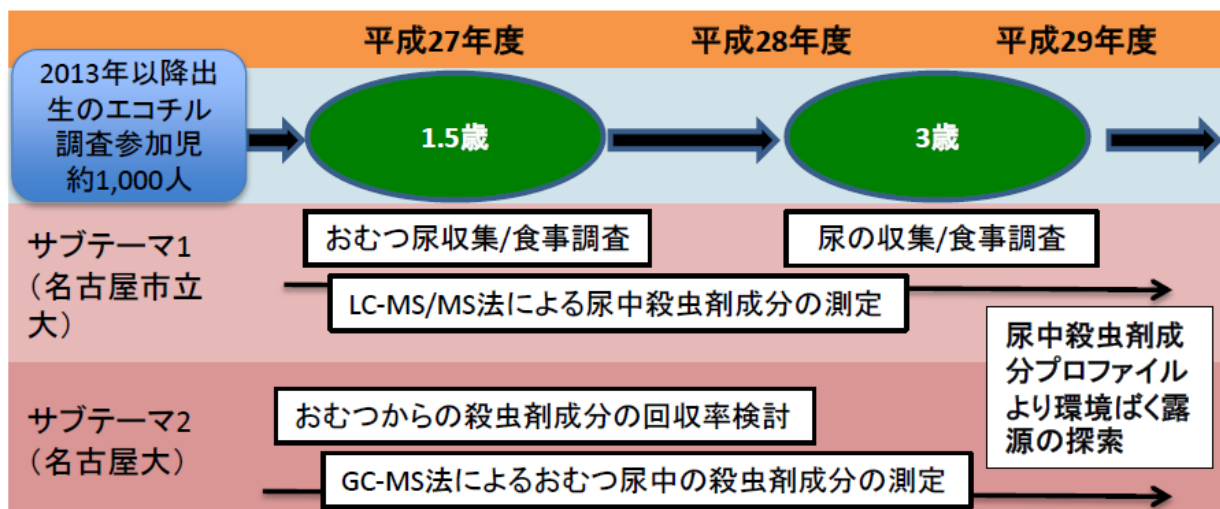
子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）では、体内に取り込まれた環境化学物質へのばく露量を、尿や血液等に含まれる量の測定により調べるが、排尿が自立する3歳までの期間における尿中化学物質の測定は予定されていない。

本研究は、作物等の保護や公衆衛生の向上を目的として使用される殺虫剤に注目し、脳の発達臨界期にあたる生後3歳までのばく露量を解明し、また、尿採取時における食事内容調査を併せることで、ばく露源の推定をめざすものである。

これにより、エコチル調査では調査を行わない時期の殺虫剤ばく露状況を明らかにでき、将来、エコチル調査の中心仮説（特に精神神経発達への影響）の検証にも寄与することができる。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 幼児の殺虫剤ばく露量評価とその由来の探索に関する研究（名古屋市立大学）
- ② おむつ尿中の殺虫剤およびその代謝物の測定法開発（名古屋大学）



紙おむつに排泄された尿中の殺虫剤成分分析

